

読書

国籍のゆらぎ、たしかなわたし
線をひくのはだれか?

木下理仁 編著



太田次郎社エディタス・2000円
きのした・よしひと
61年生まれ。ファッションデザイナー／コーディネーター、東海大学非常勤講師

本書は、編著者・木下理仁氏と執筆者らとの間に交わされた「国籍」をめぐる対話である。ただ、国籍を軸に据えているが、実際にはそれ以上にさまざまな理由から「国籍」を超え移動する人々の「routes(ルート)」に関する、密度の高い対話であった。「routes」

「わがこと」化の意義は計り知れず

傷つけられ、選択肢を狭められてきた人々の routes が、手紙として木下氏と執筆者との間で語られることで生まれる、また読者自身がその書簡の「往復の一員」であるかのような距離感である。投げかけられた問いや現実、読者自身が返事を書かなくてはならない、そんな仕掛けが散りばめられていること、その妙だ。

残念ながら、マジヨリティである「ふつうの日本人」に比べて「当事者」の直面する障壁のすべてを理解することは、難しい。本書では繰り返して「知る」と「出会う」との大切さが

田中宝紀 評者 NPO法人青少年自立援助センター定住外国人支援事業部

本と話題

韓国

佐川 亜紀

韓国では、詩が日常生活の中で親しまれていて驚くほど。天才的頭脳を持つ自閉スペクトラム症の女性弁護士が活躍する大ヒットドラマ「ユ・ミンウ弁護士は天才肌」でもアン・ドヒョンの詩「練炭一つ」が朗読された。「人生とは／自分ではない誰かのために／喜んで練炭一つになることだ」(韓成禮訳)と雇用における女性差別と闘う場面でみんなを励ま

日常生活の中で親しむ

五十嵐真希編訳「アン・ドヒョン詩選集 あさみどりの引越し日」(クオン・2000円)では、詩人の全体像を知ることができ、40年以上も創作してきた詩心の根本は、「小さなものたちと紡ぐ共生」と説く。二枚、二枚、木の葉が低いところへ落ちてゆきます。この世に何か合えるものがなくさへあるかのように(「秋の葉書」)。北朝鮮の詩人を思わせる作品も含まれ、朝鮮半島の共生への願いは尽きない。

環境問題考え

呉世栄著・徐載坤・林陽子訳『千年の眠り』(港の人・1800円)は、代表的な抒情詩人として国際交流にも貢献した軌跡を凝縮している。「木が木同士仲良く暮らすように」僕たちもそう／生きるべきだ。／枝と枝が手をとり／長い寒さを耐え抜くように(「木のように」)。

抗日海女闘争

姜信子・趙倫子訳『ホ・ヨンソン詩集 海女たち』(新泉社・2000円)は、1932年に起きた済州島海女抗日闘争を綴った。日本を海をも支配し、暮らしを圧迫した。「石の島に外海から 植民の風がわがわがの顔に吹き荒れたとき」罪なく罪人になった 二十二歳の少女会合／ぎりぎり

カルステン・ヘン 著 川東雅樹 訳『本と歩く人』



白水社・2700円

絵空事ではない奇跡

きらかなミスがあるわけでもない。本書があまりに規格外かつ説明困難な良書であること、ただそれだけが問題なのだ。不器用で偏屈、だが真の書物伝道師であり、「本のソムリエ」的な書店員として長年活動してきた老主人公が、商業文化の合理化によって活動の場を追い出され、観念的な死を迎えようとする。が、不思議な少女によって起動するミラクルによって救われる……というのが、本書についてのネタバレあり系の紹介内容になるだろう。

だが、それがいい。完膚なきまでに打ちのめされるほどにいい。絵空事でない奇跡とはおそらく、この形でそれは実在する。無神論者の私でさえ電撃的に感じてしまう「ミラクル」が本書には満ちている。ぜひ何も考えず、先入観なしに本書を手にとってみてほしい。根本的には読者向けの内容だが、そうでない読者にも濃厚に伝わるサムシングがあるはずだ。

ある意味、この物語は『魔法少女まどか☆マギカ』同様、大変な努力と苦闘の末、主人公が報われたか否かとは無関係に「世の中がちょっとマシになる」点を重視すべき話なのかもしれない。実際に考えさせられる。(著述家・翻訳家)

文庫

◆天祿著『彼女がひとり闇の中』(光文社・820円) 刺殺事件をきっかけにあらわになる現代の若者の孤独と苦悩を描くミステリー。大学生の千咲は、刺殺された幼なじみの玲奈から「相談したいことがある」とメッセージをもらって、もともとも低きところでも、もともとも陰い水の詩を歌う海女たちは私たちの人生そのものだ」と済州島の詩人ホ・ヨンソンは語る。ノーベル賞作家ハン・ガンの小説『別れを告げない』は済州島の1948年の四・三民衆虐殺事件を主題とするが、抗日海女闘争の詩も日本で深く受け止めたい。(さがわ・あき 詩人)

◆L・D・レノルズ・N・G・ウィルソン著『古典の継承者たち』(筑摩書房・1800円) 副題は「ギリシア語・ラテン語テクニクを比較検討して原典復元に努める「テクニク批判」も古代に始まったといえる。西村賢二、吉武純夫訳。7年死去の実像に迫るノ・フィクションの復刻版で、謎に包まれた同氏の足跡をたどり、関係者の証言を掘り起こすことで戦中戦後の日本の軍部や政界の闇を浮き彫りにします。

逃亡者は北へ向かう

柚月裕子 著

東北の大震災後の混乱の中で、不条理な運命にあらがひ懸命に生きる人間を描いたサスペンス。親の愛を知らずに育った22歳の真柴亮は、理不尽な巻き込まれで被疑者として拘留中に震災が起き釈放されます。彼には前日、幼い自分と今は亡き母を捨て行方を消した父から、死ぬ前に会いたいとの手紙が届いていました。けんかの余波で警官を含む2人を殺してしまい、逃亡。途中、なぜか真柴に懐く親とはぐれた男児を連れ、父の居場所を目指しますが…。(新潮社・1900円)



大人も知らない? サバイバル防災事典2

サバイバル防災研究会 編 国崎信江 監修

自然災害などの対処方法を紹介した本です。たとえば火山が噴火したとき「火山灰から身を守るには、どうすればいいの?」。目、鼻、肺などを傷つける恐れがあるので「なるべく室内で過ごし、やむをえず外出するときは「傘+ヘルメット+ゴーグル+防塵マスク+長袖+長ズボン+運動靴+手袋」で体を守りましょう。「ツルツルとした生地の方が火山灰を払い落としやすいため…レインコートを着ればさらに安心」と付け加えています。(マイクロマガジン社・1000円)



森下明有 著 笠原十九司 編・解説
満州事変 ある日本人兵士の日記
1932年9月〜1933年5月
「満州国」に派遣され戦った兵士の日記を復刻。従来の「満州事変」史の「空白」を埋め、今の世界と私たちに問いかける貴重な記録!
◎定価: 本体 3500 円 + 税
A5 判上製 / 224 ページ
ISBN978-4-406-06808-6
好評増刷!

主な目次
序 章 どう動く中国の内政・外交
第1章 国民の暮らしはどうなってきたか
「農村留守児童」と戸籍制度問題 2013年8月
「二人っ子」へ政策転換 2016年6月
「健康中国2030」と急がれる医療・健保改革 2017年4月
急速な少子化・高齢化とその背景 2021年11月…など
第2章 成長期から経済減速の中で
温室効果ガス削減対策と気候変動サミット 2021年7月
曲折たどる中国経済 2022年10月
新指導部が直面する困難と試練 2023年5月
「国家安全の維持」と「全面的改革深化」 2024年10月…など
第3章 緊張感を増す外交、安保問題
プーチン大統領の中国訪問とウクライナ問題 2024年1月
日中関係は「建設的、安定的」に進むか 2024年3月
台湾新政権発足と中国の威圧的な軍事演習 2024年8月
石破内閣の発足と日中関係 2024年12月…など
第4章 習総書記への権力集中と問われるもの
党と国家の存亡に関わる汚職・腐敗 2014年4月
全人代で憲法改正し権力集中 2018年6月
香港問題と第14次5ヵ年計画、長期目標など 2021年5月
中国共産党の100年と「偉大な復興の夢」 2021年9月…など

平井潤一 著 日本中国友好協会本部参事・日中友好新聞編集委員
習近平体制の中国
その課題と矛盾
中国はどこへ向かうのか
2012年に登場した習近平総書記・国家主席のもと中国はどう歩んできたか。
脅威論を煽るばかりの言説とは異なり、事実に基づき、国民生活、経済、外交・軍事、内政・統治を解説。14億人を擁する大国の歩みと現状を編年体で考える。私たちの生活と未来を考えるうえで正確に知っておきたい隣国の実情を凝縮した一冊。
◎定価: 本体 2100 円 + 税 / 四六判
264 ページ / ISBN978-4-406-06893-2